

嵯峨狂言豆知識

「大念佛狂言とは？」

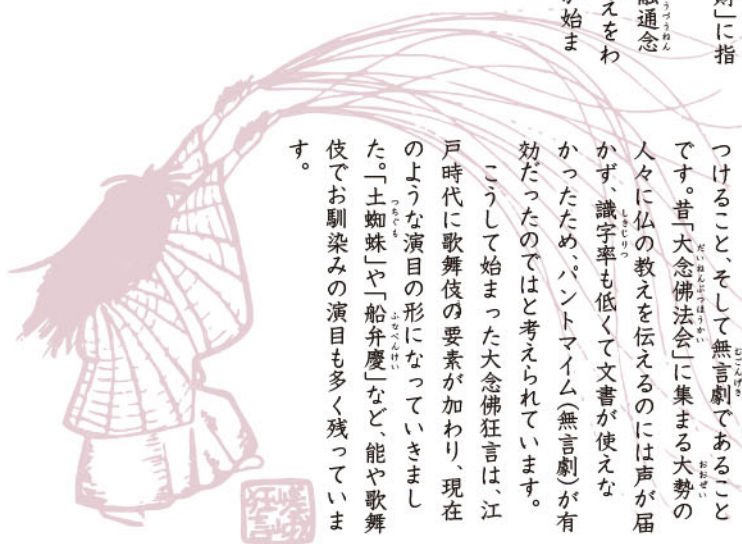
「嵯峨大念佛狂言」は、壬生狂言やえんま堂狂言と並ぶ京の三大狂言の一つで、国の「重要無形民俗文化財」に指定された伝統芸能です。
鎌倉時代中期に円覚上人が融通念仏を広める手段として、仏の教えをわかりやすく劇に見せたのが始まりと伝えられています。

嵯峨大念佛狂言保存会 今後の公演日程

- 清涼寺お松明式
日時／平成31年3月15日(金)
時間／3時半～ 5時～ 6時半～
- 春の定期公演
日時／平成31年4月7日(日)・13日(土)・14日(日)
時間／1時半～ 2時半～ 3時半～

以来、約七百年の間、嵯峨の里人の親子、子から孫へと大切に守り伝えられてきました。

一般的に知られている、能のあいだに演じる狂言との違いは、全員お面をつけること、そして無言劇であることです。昔「大念佛法会」に集まる大勢の人々に仏の教えを伝えるのには声が届かず、識字率も低くて文書が使えなかったため、パントマイム(無言劇)が有効だったのでと考えられています。
こうして始まった大念佛狂言は、江戸時代に歌舞伎の要素が加わり、現在のような演目の形になっていきました。「土蜘蛛」や「船弁慶」など、能や歌舞伎でお馴染みの演目も多く残っています。



嵯峨狂言堂修復寄付金のご協力ありがとうございました



修復された狂言堂。
内・外部ともに江戸期の様式へと修復されました。

明治34年(1901)に現在地に移設された狂言堂は、京都府・市文化財保護課の指導による建物調査により、緊急の修復が必要と判断されました。そして嵯峨狂言堂は文化庁からの着工許可が出された平成28年11月より工事に入り、平成30年9月末日に修復工事の完了を迎えることができました。
保存修復寄付金のご協力をいただいた皆様方や、保存修復工事に関わっていただきました皆様方に心より御礼申し上げます。

子供狂言クラブではメンバーを募集中です。興味のある方はぜひご連絡ください 連絡先／080-1414-4864(加納)

嵯峨大念佛狂言

嵯峨狂言クラブ公演

橋弁慶



大原女



日時 平成三十一年二月二十三日(土)
場所 夢窓幼稚園 二階ホール
時間 午後一時開場 午後一時半開演
演目 大原女 橋弁慶

大原女

おはなし

おはらめ

舞台は大原の里。花見にやってきた旦那と供は、そこで母親と大原女である三人娘の一行に出会います。(大原女は、頭に薪や柴を乗せて、京の町へ行商に出かけた大原の働く女性のことです。)

三人娘と一緒に酒盛りをしたいと思った旦那は、供に命じて母親に話をつけさせます。そうして一緒に酒を飲み、盛り上がっていく中、酔った供が踊り始めます。あまりにも下手だったため、母親は三人娘に踊りを披露させました。旦那は、手を叩いて見ていましたが、そのうち浮かれて踊り出し、どさくさにまぎれて娘のひとりの手を取って連れて行くこととしました。それをみた母親は大激怒。考えた末、娘と入れ代

わって、旦那の求めに応じることにしました。母親になりすました娘と供は、先に退場。残った旦那は何も知らずにワクワクしながら娘の顔をのぞき込むと、そこにはお多福顔の母親が。旦那はびっくりし、きりきり舞いして逃げ帰ります。

配役

- ・旦那 片野慶大(嵯峨小四年)
- ・供 為季 なぎ(嵯峨小三年)
- ・母親 川口 蒼樹(広沢小四年)
- ・三姉妹 加藤奏(嵯峨小四年)
松本紗奈(嵯峨小三年)
川口 沙羅(広沢小二年)

※都合により、変更する場合があります。

橋弁慶

おはなし

夜になると、五条大橋に現れた牛若丸が、笛を吹きながら通行人に紛れている侍浪人らを斬り捨てています。

ある夜、弁慶は、従者と家来に五条天神に詣でると告げます。従者は人斬りが現れるので思い留まるよう進言しますが、弁慶は聞かず、五条天神へと向かいました。

五条大橋では、牛若丸が再び、侍浪人らを斬り捨てました。そして、橋の欄干の上に立ち、侍浪人らを待ち構えていました。そこに弁慶と従者が現れます。牛若丸は笛を吹きます。それを聞いた弁慶は人斬りがいることに気がつき、周囲を探ります。そしてついに牛若丸と対決します。弁慶は薙刀で牛

若丸に挑みますが、ひらりとかわされ、薙刀を叩き落とされてしまいました。再度、刀を向けますがそれでも歯が立ちません。力尽きた弁慶は、牛若丸に降伏し、家来になる約束をしてその場から立ち去ります。

配役

- ・牛若丸 山崎 沖七(正親小二年)
- ・弁慶 加藤 響(嵯峨小六年)
- ・従者 片野 央治郎(嵯峨小一年)
- ・斬られ 高瀬 弥太郎(御室小二年)
- ・通行人 松本 理玖(嵯峨幼稚園年長)
北村 孟裕(夢窓幼稚園年長)

※都合により、変更する場合があります。

狂言堂での練習が再開しました！

平成30年9月に、修復工事が終了した狂言堂でのお稽古が再開。美しく生まれ変わった舞台にて、練習に励みました。



〈後見〉 小西 小三郎

橋 隆仁

〈囃子方〉 加納 敬二(鉦・太鼓)

近藤 奈央(笛)

〈解説〉 加納 敬二

※いずれも嵯峨大念佛狂言保存会会員

表紙の切り絵の「橋弁慶」は、祇園祭で巡行する「橋弁慶山」のてぬぐいのデザインより、「大原女」は、京の祭り研究会刊「京のまつり・年中行事」より引用させていただきました。どちらも、イラストレーター、郷土史家として活躍した故・松本元氏が手がけた作品です。